

第2回 国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト (iCAN 1) 国内予選で京都大学チームが1位受賞



12月7日、仙台で開催された第2回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト日本予選大学生部門（高専、専門学校、大学院を含む）で、京都大学大学院工学研究科ナノ・マイクロシステム研究室（田畑研究室）の4回生有志で結成されたチーム「TBT」が、昨年に引き続き1位を受賞しました。

このコンテストは MEMS（微小電気機械システム）デバイスを用いたアプリケーションを提案し、試作した成果を競う国際コンテストで、アイデアのユニーク

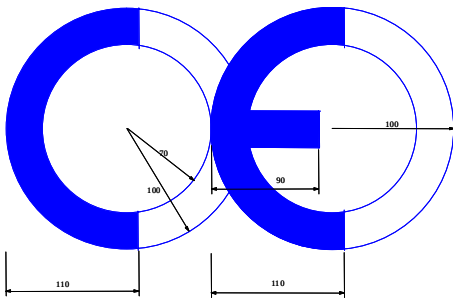


さ、社会に役立つか、などのポイントが審査されます。 作成したアプリケーションは指文字翻訳機「TEMS (Talking Equipment from Manual Sign)」。

加速度センサと磁気センサを組み合わせることで手話で使われる指文字を認識し、音声に変換する装置です。 **聴覚障害のため言葉を発することが不自由な方が、手話を知らない人に意思を伝える際の補助機器として考案されました。**

大会関係者によると、製作されたアプリケーション「TEMS」は、1日目の一般投票、2日目の審査員による審査とも文句なしの1位での予選通過だったとのことでした。 予選通過で一安心したチームメンバーは、現在は卒業研究に向けて全力投球しています。 来年の6月に北京で開催される世界大会に向けた活動は3月から再スタートするとのこと。 昨年の世界大会では3位を獲得したチーム「TBT」、来年の世界大会での活躍が期待されます。





CE マーキングについて (その2)

庵 文隆 (41 年修士卒業)

3. 手続きの取り方 (手順)

- ① 対象製品の特定 ⇒ 適合させるべき法律の種類が決まる
- ② 適用すべき欧州指令の決定 ⇒ どんな指令があるのか？
⇒ 関連する、全ての指令に適合させること
- ③ 適用すべき整合規格の選択
- ④ 適合認証手順の決定
- ⑤ 技術ファイルの作成 (取扱指示書を含む)
- ⑥ 適合宣言書の作成
- ⑦ 製品への CE のロゴの貼付
- ⑧ 製品の輸出

4. 機械装置に関する代表的な指令

- ① 機械指令 (Machinery Directive 2006/42/EC)
 - 機械 (Machinery) とは？ ⇒ 特定の用途に応じるための部品の集まりで、作動装置、制御回路、動力源を備えたもの
 - 半完成機械 (Partly completed machinery) とは？
⇒ 他と組み合わせて使用しなければ、単独では本来の目的を達成出来ない機械

- 適合宣言の仕方が違う (前者は A 宣言、後者は B 宣言)
- ② 低電圧指令 (Low voltage Directive 2006/95/EC)
 - A C 50 ~ 1,000V
 - D C 75 ~ 1,500V
- ③ 電磁両立性指令 (Electro-magnetic Compatibility Directive 2004/108/EC)
 - 有害な電磁波を出してはならない
 - 外部の電磁波によって、機械が誤動作や故障してはならない
- ④ 圧力機器指令 (Pressure Equipment Directive 97/23/EC)
 - 0.5bar 以上の容器 (bar × Liter の大きさによって手続きが違う)

CE マーキングに関する、その他の指令は＜参考3＞を参照下さい。

- ✧ 機械指令
- ✧ 電磁両立性指令 (EMC)
- ✧ 低電圧指令 (LV)
- ✧ 医療機器 (MD)
- ✧ インビトロ診断用医療機器
- ✧ 埋め込み式能動医療機器
- ✧ 遠隔通信末端機器
- ✧ 単純圧力容器
- ✧ 圧力機器
- ✧ 非自動ばかり

- ✧ 建設資材（材料）
- ✧ エネルギー効率
- ✧ がん具の安全性
- ✧ ガス燃焼機器
- ✧ 熱水ボイラー
- ✧ 遊覧船
- ✧ リフト
- ✧ 民需用爆薬
- ✧ 身体保護用具
- ✧ 防爆機器
- ✧ マーキング

＜参考3＞ CE マーキングに関する指令

5. 整合規格の選択（＜参考1（前報第1図）＞の規格関連図参照）

各指令の整合規格の中から、対象製品に関連する規格を選択し、それらを参考に設計する

- 整合規格の種類 基本規格：A 規格
 共通規格：B 規格
 個別規格：C 規格

○整合規格選定の手順

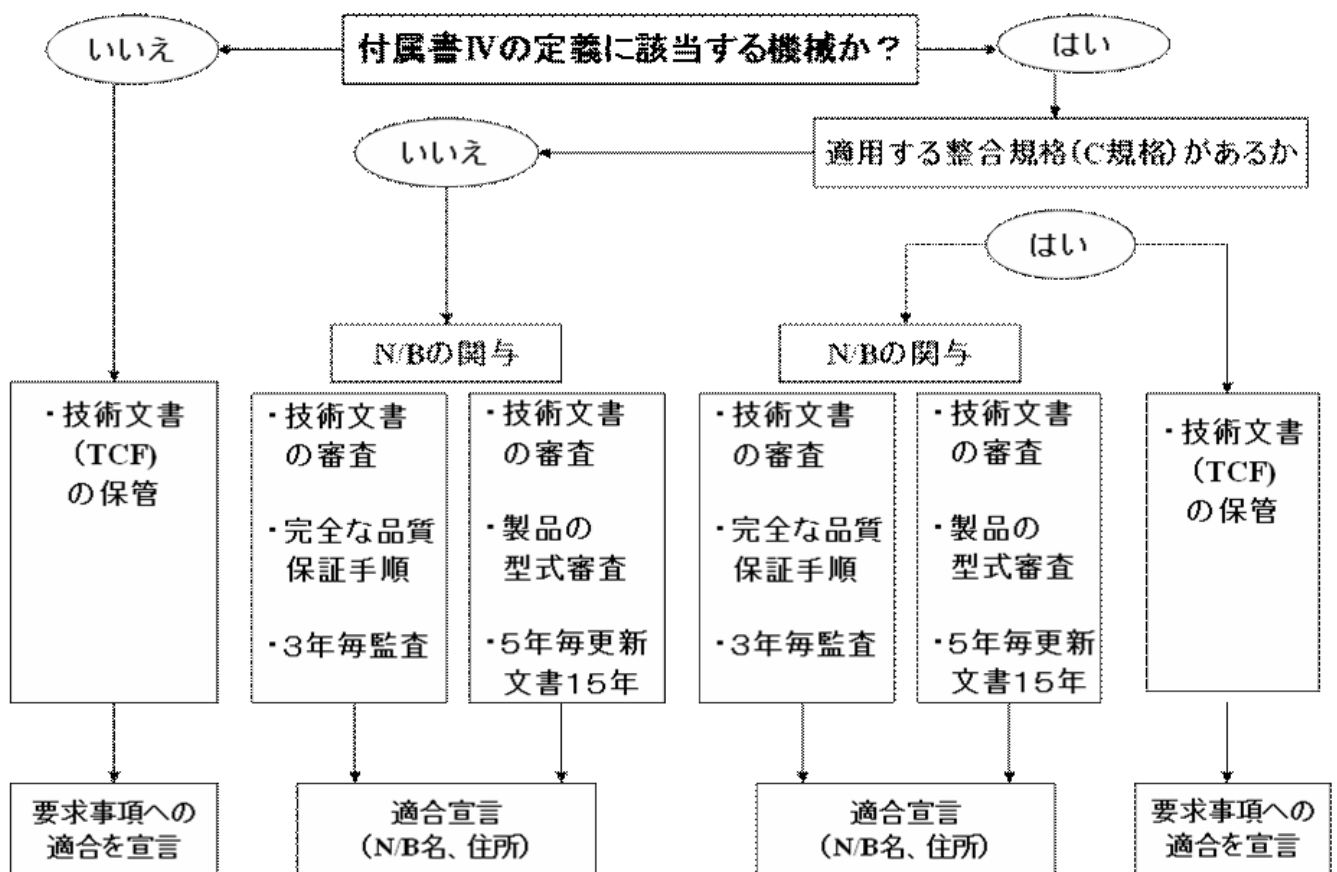
- ・ A 規格の適用は必須
- ・ C 規格がありますか？ Yes ⇒該当する C 規格に適合させる
 No ⇒ B 規格の中から関連するものを選定し適用する

6. 適合認証手順の決定（次図参照）

- ・ 図に従って、どのモジュールに従うべきかを決定する
- ・ 大部分の機械は、最左の 100% 自己宣言のモジュールで対応できる
- ・ N/B とは、ノーチファイド・ボディー（Notified Body）と称し、EU の加盟国が指定した、認証機関である。
- ・ いずれの手順においても、宣言のバックデータ（証拠書類）としての技術文書（T C F）の作成保管が義務付けられる。

7. 自己適合評価の実施

- ① 自己宣言モジュールの選択
- ② リスクアセスメントに基づく、自己評価の実施
- ③ 製品試験の実施（電気試験、EMC 等）
- ④ 技術文書の作成
- ⑤ 適合宣言書の作成



8. 技術ファイル (Technical Construction File) の作成 (具備すべき内容)

- ① 機械の概要、全体設計図及びコントロール回路図
- ② 製造者の情報
- ③ 必須要求事項への適合性をチェックするために必要な詳細図、計算記録、試験結果等
- ④ 関連する整合規格で定めた試験報告書
- ⑤ 適用した規格及び指令の必須要求事項を満足する為に実施した安全対策 (リスクアセスメント結果)
- ⑥ シリーズ製造品の場合、品質保証体制文書
- ⑦ 取扱指示書のコピー
- ⑧ 宣言書の原紙
 - ・ TCF は、10 年間の保管義務がある

9. 適合宣言書の作成

- ・ 宣言者は製造業者又は E U 域内の認定代理人
- ・ 関連指令の必須要求事項及び関連する整合規格に適合している旨の表明
- ・ 署名 ⇒ 製品について責任を持てる、説明出来る個人が署名)
- ・ EU (欧州連合) の公用語で作成 (英、独、仏語のいずれか)
- ・ 輸出先の言語でも作成
- ・ 宣言書は、機械と一緒に移動しなければならない

最後に、この制度は非常に理念が高く、自らの製品のどこにどんなリスクが潜んでいるか、リスクの大きさ、その大きさに応じてどこまで対策を取るべきか、対策後どこまでリスクが低減されるかを、すべて自ら判断する事を求めている。 予防安全であり、結果責任を問われるので、法の抜け穴を探す手法は無い。 従って、設計・製造に当たってのリスクアセスメントが法的にも極めて重要となる。

CE マーキング対応にはコスト高になると想われがちだが、決してそうではなく、あくまで合理的に予測される範囲での常識的な安全対策を要求しているのであって、むしろ、向け先によって安全基準を変える事の方がコスト高になったり、あるいはPL 訴訟のもとにもなりかねない。 CE マーキングの理念を社内基準に取り入れるべきというのが、10 年近くのコンサルタント業を通じての結論である。

<参考 4> 現在の CE マーキング対象国

加盟国（27 カ国）：

オーストリア、ベルギー、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、ドイツ、ギリシャ、フィンランド、フランス、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルグ、マルタ、ポーランド、ポルトガル、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、オランダ、イギリス、ルーマニア、ブルガリア

未加盟国で CE マーキングを採用している国（4 カ国）：

アイスランド、ノルウェー、リヒテンシュタイン、トルコ

(おわり)

シルクロードを旅して

(その 6)

1966 年 機械科修士卒 平 忠明

私が見た中国の現状

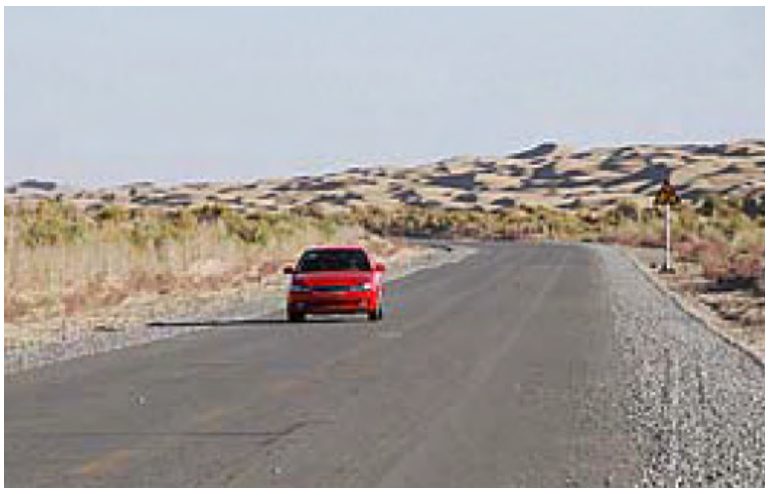
「旅行者にとっての治安」

中国の治安はすべて“公安”という巨大組織で統括・管理・実行されている。街を走っているいわゆるパトカーには、公安、公安部、公安警察、公安 Police など様々な表示があり、覆面パトらしき車両も目撃した。この組織は日本の警察庁以外に、米国のCIA, FBI の組織など諜報部門も含む。概して、海外旅行者には、治安に関する不安を感じることはないといえる。

ただし、今回の旅行中一件深刻な状況に出くわしたので、紹介しておきます。それは、最終日前日 9 月 26 日敦煌から北京への飛行機で、出発直前機内放送が流れ



タリム盆地に広がる砂漠で、面積は約 30 万平方 km と世界で 2 番目の大きさです。タクラマカンとはウイグル語で「死」や「無限」などを意味する合成語で、昔は一度入ったら出られない死の砂漠と捉えられていました。しかし 1980 年代から石油や天然ガスの油田の調査が始まり、今では中国のエネルギーを支える存在として注目が集まっています。



天山南路の輪台と西域南道のニヤを結ぶタクラマカン砂漠を縦断する道路油田開発の一環として 1991 年から作られたこの道路は。97 年に一般人にも開放されました。全長は約 500km で広大なタクラマカン砂漠を感じることが出来ます。最近では緑化計画を推し進めており、道路に沿って人工的にタマリスクなどの植

物を植え 4 キロごとにあるポンプ小屋から毎日地下水を供給しています。また砂漠を横断するように流れるタリム河の近くには胡楊の木がたくさん見られ、秋にはきれいに黄葉した姿も見ることが出来ます。

“ただいま最終の乗客の到着を待っているので、しばらくお待ちください” との内容。 約15分後、日本人らしき女性が泣きながら慌しく乗り込んできた。 すぐに飛行機は離陸したが、彼女の席がたまたま私の前であったので、しばらくして、彼女からの泣きながらの訴えを聞く羽目となった。 彼女は一人旅で、現地ガイドをつけずに、写真撮影を趣味とした中国旅行で今回が4回目であると。 かつて、フィルムタイプの一眼レフの検閲でフィルムを没収されたことはあるが、今回はカメラも壊されてしまったと。 今回、我々にも必ずしも良く識別できなかったが、ウイグル人運転手から、其処は撮影禁止であると教えられた箇所が幾つかあったのを記憶している。 丁度、尖閣列島騒動の真っ只中であったが、彼女の場合の詳細な背景、どこを撮影したのか？ また、30分以上拘束され検査された理由？ などは憶測の域を出ないが、中央政府の指示が直ちに敦煌まで徹底されていたと想定すれば、旅行者も細心の注意を払うべきであると、あらためて実感した次第。



中国、新疆ウイグル自治区には、人々が「魔鬼城」と呼ぶ奇妙な景観が点在する。城跡う吹きが物声をわ奇怪な空実が数年削のよにも見え、つける風化けの思せる間は、は風千万かけてった広大な岩山だ。シルクロードの知られざる魅力に迫る。 奇台・魔鬼城（強風が数千万年という時間をかけて作った自然の景観）奇台・魔鬼城の中心にそびえる高さ15mのタワー（強風が数千万年という時間をかけて作った自然の景観）。

新疆カラマイ「魔鬼城」の重質油埋蔵量は3.6億トン(10/05/25) 新疆油田公司 勘探開発研究院の研究員は新疆自治区カラマイ「魔鬼城」付近の「重18油井区」において実地探査を行い、同エリアの重質油埋蔵量が3.6億トンに上るとした。熱攻法による重質油開発が間もなく開始される。「重18油井区」はカラマイ市から120キロ。 国家4A級の景勝区「魔鬼城」に隣接しているため、新疆油田勘探開発研究院は「重18油井区」の開発に当たって、グリーン油田開発方針を打ち出し、景勝区の地形や自然環境への影響を最小限にする開発計画を進めている。カラマイの重質油は低硫黄を特徴とし、精製によって航空機用などハイエンドの潤滑油やジェット燃料などの石油製品を生産することが出来る。 精製過程から生じる高速道路用アスファルトの市場価値も高い。

「税金、年金、役人天下の巨大組織の中国政府」

現地中国人：ウイグル人、漢人双方から、今回聞いた話を要約すると。

消費税＝0

所得税＝年収 8,000 元を超えると 10 %

厚生年金・健康保険：全額企業が負担、役人の場合は政府が全額負担。

定年制：民間企業は男子＝55 才、女子＝50 才、役人は男女共＝60 才。

定年後、大半は再就職、その場合の年収は一般的には半額以下に落ちる。

年金：一般国民は月額約 2 万円、一方役人は月額約 10 万円が支給される。

役人天国を象徴するものとして、全就業人口の約 30%を役人が占めていると。

これには、中央政府から末端行政府までの郡・村の役人を含めるが、最近になって統計上のこの数字を減らすために、軍・警察（全て公安部組織に統括されている）の人数は除外して、なをかつ、この数字であると嘆いていた。

このような実状からも、国民、特に低所得階層からは、役人（ひいては中国政府：共産党）に対する不平・不満が極めて大きい。

(つづく)

—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。

宜しくお願い致します。

5つの向かい風を超えて (その4)

間瀬俊明* (昭42年卒 デジタルプロセス(株))

「個の最適化」から「システム化」へ

日本人の強みは全くの無から何かを創り出すのではなく、今ある商品やサービスを究極まで磨きあげ効率化させることで、完璧な商品に仕立て上げる力にあります。言い方を変えれば、最適化の手段として「改善する」「玉成する」「極める」といった仕事のやり方で強みを発揮してきました。しかし科学技術とグローバル化の進展で、限りなく複雑化する対象を制御するのが難しくなり、その解決の有効な手段として、システム化の威力が増していました。しかしシステム化が意味するものを本当に理解し吸収することが十分にできなかったため、時代の流れを正しくとらえた強い製品やビジネスを生み出すことができませんでした。

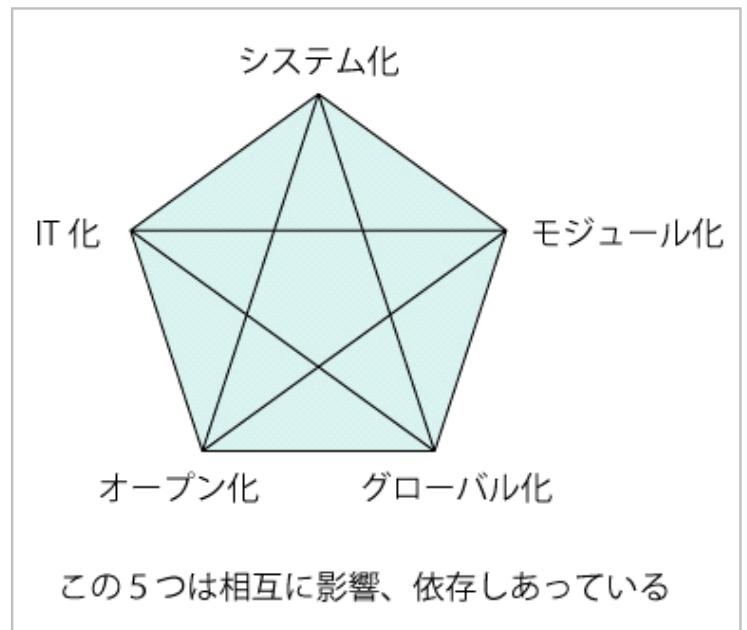


図6

ところでシステムとは一体何でしょうか。なんとなくわかりづらい言葉です。あえて定義すれば、個別ではなくそれぞれの要素を有機的に繋げた系の全体という意味でしょうか。辞書を見ても適切な訳語が見当たらないことから分かるように、日本人にとってシステムという概念はもともとありませんでした。そのことからシステム思考の弱さは認めざるをえません。一方で複雑さを増すあらゆる人間活動において、自然科学に限らず社会科学や人文科学を含めた全ての領域でシステム思考の重要性和価値が増えています。特に今の時代における優れたシステム化とは、5つの変化で取り上げたうち、「オープン化、グローバル化、IT化、モジュール化」の4つのキーワードを、その本質における価値を最大限に発揮できる形で結び付けること」であるといった方がよいかもしれません。

第二次大戦をシステム戦として見た時の負け方や、戦後のIBM/360 OSの発表など、遥か以前からシステム化力に関する根底の差があったにも拘わらず、殆どの産業でその本質を深く追求してこなかったことが今日の状況を招いたと思います。システムに弱いといった特質をどう克服するか、依然として重い課題として残されたままになっています。

以上の5つ変化はそれぞれが極めて密接な関係にあり、相互に影響を及ぼしつつ有機的に結ばれ、それぞれの変化を加速してきました（図6）。進化論ではありませんが、環境が急激に変化していくとき、それ以前の環境への適応が高かった分、新しい環境への適応が難しいことを改めて感じます。次号では、これらの変化を乗り越え、目標の達成に向けた新たな取り組みについて考えてみたいと思います。

(つづく)

野次馬話 第15話 「素朴な質問ですが」

S43 卒 遠藤照男

昔聞いた、某俳優にはルピつきのシナリオを渡さねば読めないという話が、今のTV出演者にも蔓延しているようだ。勿論素晴らしい人も多いが、露出機会が増えている分、目にはいり易い。微塵の教養も感じられないタレントがリポーターになって、「素朴な質問ですが・・・」とやっているのを見ると、明らかに初歩的なことにも無知なのを、「素朴な・・・」との言葉で取り繕っているとしか感じられない。

＜素朴＞：①飾りけがなく自然のままである ②洗練されたところや口先が上手いところはないが、真情を行動で裏付ける良さがある、③考えが単純であり発達していない、等の意味がある。

一般的に使われる意味やTVのディレクターが求める雰囲気としては①や②であるが、この場合は③の説明が完全に合致しているので、ディレクターやタレントの意図を率直に受取れないのである。

京機会 MOT センター（KMC）総会報告

KMC 事務局

京機会 MOT センター（KMC）は、去る12月18日、平成22年度総会をホテルグランヴィア大阪にて開催した。出席者は26名で、終始熱心に聞いていただき意見を交換させて頂いた。

総会では中谷征司会長の挨拶、来賓の松久寛教授、平田誠計関西支部長の祝辞、会計報告、小浜弘幸氏の監査報告に続いて、中谷会長、並木インキュベーション部長、林ビジネスマッチング部長および西宗人材マッチング部長による22年度活動報告と23年度計画の報告（内容後述）をもって閉会となった。

引き続き懇親会に移り、坂戸瑞根前会長の乾杯の音頭のあと、最大のビジネスパートナーである京都リサーチパーク（株）岡田直樹成長企業支援部長、及びテクノロジーシードインキュベーション（株）佐々木美樹氏からの挨拶があった。また宴半ばには会員吉岡肇氏によるKMC関連コンサルティングの報告やひょうご産業活性化センターの福島清司氏、新加入ながら運営委員として活躍している來田浩毅氏などからの挨拶もあり、最後に京機会会員でもある、京都リサーチパーク橋永雅夫常務の一本締めにてお開きとなった。



以下に席上報告した今年度の活動概略、KMC の中心活動ともいうべきビジネスマッチングについての4年間の総括、そこから生まれ出る新法人「京都イノベーション・リソース」の構想をご紹介します。

1. 平成22年度の活動報告概略

KMC 会員数は65名（前年比＋1名）、ビジネスパートナーは9社と前年並み。ビジネスマッチング部門は前年同様、京都リサーチパーク(株)（KRP）と協力して、中小企業などの製品、技術を京機会ネットワークのメンバーである大手企業などに紹介するためのシンポジウムや、マッチング会などに積極的に参画したが、特に本年はこれまで以上にKMCが企画段階から参画し、マッチングの質を高める事が出来た。絶大なるご協力をいただいた松原教授、S製作所、M製作所の関係者に感謝の意を表したい。

人材マッチング部門は京機短信などを介して種々の情報を照会したが、講師紹介など数件の成約に留まった。またインキュベーション部門はビジネスパートナーであるテクノロジードインキュベーション社（TSI社）から各種ご提案をいただき、機械系以外の知識が必要な場合もあり、KMC外のメンバーの助けも借りて、対応した。

2. ビジネスマッチング これまでの4年間の取り組み

- 1) インキュベーション支援機関からの要望により、ベンチャー企業などに対して講演、研修のサービスや、技術、新製品の評価支援
- 2) 京都リサーチパーク（株）と連携してニーズオリエンティッドなビジネスマッチングを実施
 - ① 2008年；自動車
 - ② 2009年：＜前期＞鉄道、＜後期＞エネルギー・環境
 - ③ 2010年；精密加工生産技術（京都企業）
- 3) 京都大学（産官学連携本部）と企業とのマッチング
- 4) 成果
 - テーマに応じて、京機会ネットワークのポテンシャルを引き出した。
 - 各地ベンチャー支援機関や行政などからの一定の認知度獲得
 - 京都大学と企業との包括協定のコーディネート

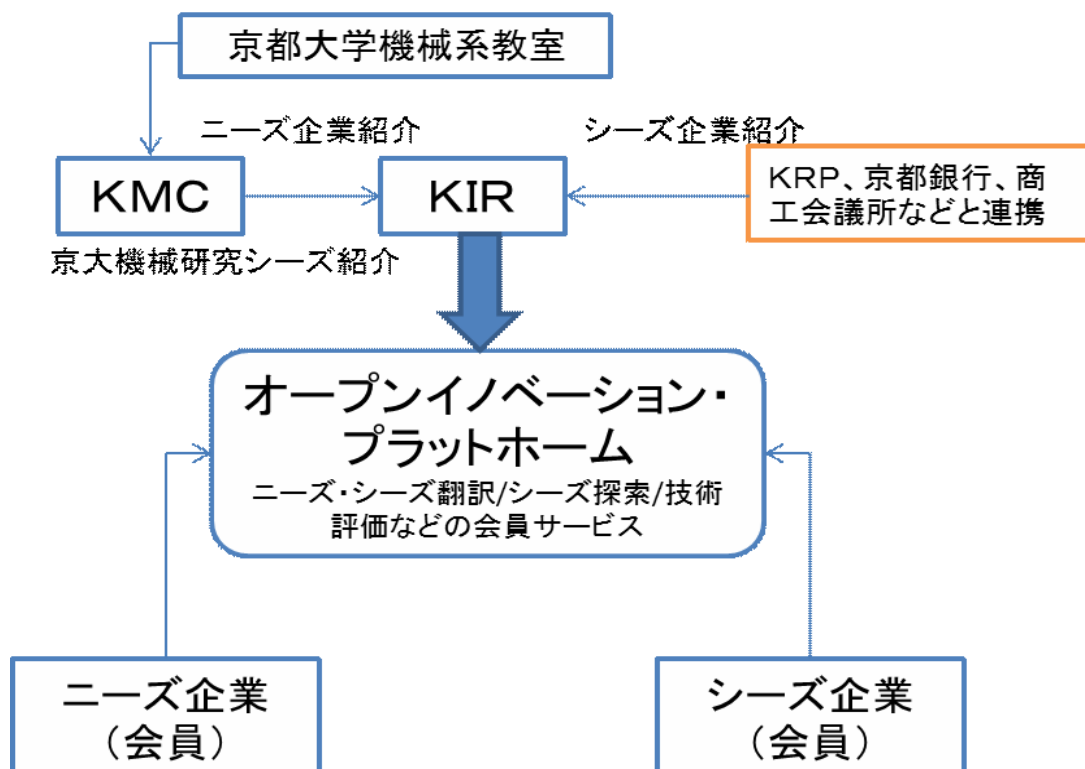
3. NP0 法人設立の計画

KMCの理念を実現するため、社会的に信頼されるに足る責任ある組織を作るべくNP0法人を設立する事を計画している。下記はその概要。

- 1) 特定非営利活動法人（NP0） 京都イノベーション・リソース（略称 KIR）
- 2) 登記上の本拠所在地 京都高度技術研究所(ASTEM) 8階
- 3) 発足 2011年4月の予定
- 4) 事業のイメージ

会員が所属する大学、研究機関及び各種企業において、それぞれが所有する知的資源を共通に活用できるプラットフォームを構築することにより、技術と経営に

関する戦略的連携（オープンイノベーション）に必要なサービスを提供する。
（下図）



当面の具体的な事業例としては、支援機関とのビジネスマッチング受託事業、大学のシーズを活用した企業支援、および公的プロジェクトの提言と支援などを考えている。

4. その他

1) KIRの来春発足に伴い、KMCの会計年度を現状の11月1日起算から4月1日起算に変更する事を考えている。

2) 新年度役員

会長 中谷征司

監事 小浜弘幸

インキュベーション部長

ビジネスマッチング部長

人材マッチング部長

その他運営委員

副会長 平田誠計

事務局 並木宏徳

並木宏徳

林 完爾，

西宗久昭，

若林 穰、長井俊彦、村田哲也、川合 等、

來田浩毅、松久 寛、 田中啓一

（いずれも敬称略）

副部長 上田正一，土井健志

副部長 元田武彦

以上

各支部 新年会のご案内

関西：<http://keikikai.jp/shibu/kansai/gyouji.html>
関東：<http://keikikai.jp/shibu/kantou/gyouji.html>
中国四国支部：http://keikikai.jp/shibu/cyugoku_sikoku/gyouji.html

--- 関東 ---

京機会関東支部第11回総会・新年会のご案内

◆日時：平成22年1月22日(土) 16時00分～19時30分 受付15時45分から

◆場所：日立金属 和樫館 大会議室

http://www.shunko.jp/fukuri/link_sisetu/wakyokan/wakyo_index.htm

【MAP】http://www.shunko.jp/fukuri/link_sisetu/wakyokan/wakyo_map.htm

〒108-0074 東京都港区高輪4-10-56 TEL 03-3443-1717

JR品川駅下車 高輪口から徒歩10分

I. 第11回総会(16時00分～17時30分)

講演 「人間の友達の機械としての自動車と日本の自動車技術・産業」

両角岳彦氏・久保愛三氏

II. 懇親会(17時30分～19時30分)

◆参加申込 京機会HPでお願い致します。

<http://www.keikikai.jp/shibu/kantou/gyouji.html>

第20回リカレント教育講座

第二世紀記念事業会・関東支部共催

14時00分～15時45分

テーマ：急速に進化するディーゼルエンジン技術

講師：石山拓二氏 (エネルギー変換科学専攻教授)

--- 中国四国支部 ---

「見学会」及び「支部総会」、「異業種交流会」

1. 開催日時 2011年2月5日(土) 12:00～19:30

2. 見学会 見学場所：呉市海軍歴史科学館 (大和ミュージアム)

<http://www.yamato-museum.com/>

12:00 JR呉駅改札口集合 (各自食事は済まして集合とする)

12:15 大和ミュージアム着 (JR呉駅より徒歩5分)

12:15～14:00 見学 (博物館のガイド先導により館内見学)

14:00 大和ミュージアム正面に集合

14:00～15:00 貸切バス移動 (呉→広島ダイヤモンドホテル)

3. 支部総会&異業種交流会

場所：広島ダイヤモンドホテル

〒733-0036 広島市西区観音新町2-4-6

電話 082-292-3161

<http://www.h-diamond-hotel.com/>

講演①超音波を用いた機能・健全性の評価 (京都大学 教授 琵琶志朗)

講演②民間航空機における雷保護技術 (三菱重工 技師長 神納祐一郎)

申し込み方法

京機会ホームページより、お申し込みください。

http://keikikai.jp/shibu/cyugoku_sikoku/gyouji.html

展示会のお知らせ

塩瀬 隆之(1996 卒)京都大学総合博物館 准教授

1 月 14 日より 23 日までと短くて恐縮ですが、昨年末よりメディアをにぎわせております 70 年ぶり生存確認のクニマスを京都大学総合博物館の企画展示室にて、展示させていただいております。

1940 年から姿が確認されていなかったクニマスが、2010 年春、山梨県の西湖で確認されたということで、昨年末に陛下も御誕生日会見にてふれられたことでも注目を集めました。

<http://sankei.jp.msn.com/science/science/110114/scn1101141140003-n1.htm>

<http://kyoto-np.co.jp/environment/article/20110114000077>

<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/modules/special/content0019.html>

1 月 23 日(日)には、クニマスを確認された中坊教授によるレクチャーもございますので、ぜひのぞいてみてください。

また、2 月 2 ～ 6 日には「はやぶさ」の展示も京都大学総合博物館にて開催いたします。こちらもお都合許せば、のぞいてみてください。

<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/modules/special/content0020.html>

京都大学工学研究科 高等研究院・インテックセンター

平成22年度成果報告会「知と技の新しい生産空間」

日時：平成23年3月2日(水)13:00～(受付開始12:30～)
場所：京都大学東京オフィス(品川インターシティA棟27階)

開催のご案内

京都大学工学研究科高等研究院研究部門・工学研究科附属桂インテックセンターは、異分野の融合と社会の連携のもとで、新たな学際的な研究領域の形成と研究推進を行うとともに、学際研究を支える基礎学問分野の更なる充実と創生を行い、その成果を広く社会に還元し、豊かで実りある社会形成に貢献することを目的としています。

今回、より多くの方々へ活動を知って頂く為に初めて開催地を東京とし、高等研究院研究部門とインテックセンターのオープンラボを利用するプロジェクトグループによる最新の研究成果の紹介と学外との連携を求めた報告会を下記要領にて催すはこびとなりました。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

プログラム

12:30～	受付開始		
13:00～	開催挨拶	工学研究科長	小森 悟
	来賓ご挨拶	文部科学省 高等教育局 高等教育企画課長	義本 博司
		経済産業省 技術総括審議官	西本 淳哉
	高等研究院・インテックセンターについて	高等研究院長	谷口 栄一
13:30～14:10	招待講演 21世紀型課題の解決とオープンイノベーション(仮題)	AIST 産業技術総合研究所 理事長	野間口 有
14:10～14:40	化学生物学的アプローチによる新たな生理学計測法	生体医工学研究部門	森 泰生
14:40～15:10	極限を目指した新しい半導体デバイスの実現	光・電子理工学研究部門	木本 恒暢
15:10～15:20	休憩		
15:20～15:50	木質バイオマスからモノマー、ポリマー原料への選択的熱化学変換法の開発	環境基盤工学研究部門	前 一廣
15:50～16:20	分子ナノテクノロジーの新展開と有機光電子デバイス統合システムの開発に向けて	融合ナノ基盤工学研究部門	松重 和美
16:20～16:50	次世代蓄電池の開発	次世代電池のための材料開発とその特性評価	安部 武志
17:00～	ポスター発表/交流会(会費制)		

申込方法/締切

下記お申し込み用フォームにてお申込下さい。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/survey/ja/gkenkyo/h22apply>

平成23年2月17日(木)

定員(100名)になり次第締め切らせていただきます。(無料)

交流会(ポスター発表)会費制:¥2,000-

問合せ

〒615-8530

京都市西京区京都大学桂 京都大学工学研究科学術協力課研究協力掛

Tel: 075(383)2056 Fax: 075(383)2061

E-mail: inttech@adm.t.kyoto-u.ac.jp

HP: <http://www.t.kyoto-u.ac.jp/gakukyo/inttech/>

